



谷 沢 明 教授

学 歴：

- 1973年3月 法政大学工学部建築学科卒業
- 1975年3月 法政大学大学院工学研究科建設工学修士課程修了
- 2000年3月 博士（工学）（法政大学第216号）

職 歴：

- 1977年4月 近畿日本ツーリスト日本観光文化研究所所員 [1981年5月まで]
- 1981年6月 近畿日本ツーリスト日本観光文化研究所主任研究員 [1989年3月まで]
- 1988年4月 放送大学非常勤講師（地域社会学担当） [1994年3月まで]
- 1988年4月 近畿日本ツーリスト日本観光文化研究所事務局長 [1989年3月まで]
- 1989年4月 武蔵野美術大学短期大学部非常勤講師（通信教育・民俗学担当）
[1995年3月まで]
- 1989年10月 放送教育開発センター助教授（社会調査担当） [1995年3月まで]
- 1990年4月 武蔵野美術大学非常勤講師（生活史担当） [1995年3月まで]
- 1995年4月 愛知淑徳大学現代社会学部現代社会学科地域社会コース 教授（社会調査論、地域文化論、民俗学、地域社会演習Ⅰ、地域社会演習Ⅱ、卒業論文または卒業制作担当） [2005年3月まで]
- 1999年4月 愛知淑徳大学大学院現代社会研究科現代社会専攻 地域社会コース 教授（地域社会プロジェクトⅢ、都市環境デザインプロジェクトⅣ、地域社会特別研究Ⅲ担当） [2013年3月まで]
- 1999年4月 愛知県立大学兼任講師（地域文化論担当） [2002年3月まで]
- 1999年4月 名古屋大学兼任講師（考古学特講担当） [1999年9月まで]
- 2005年4月 愛知淑徳大学現代社会学部現代社会学科フィールドスタディコース 教授 [2010年3月まで]
- 2005年4月 愛知淑徳大学大学院現代社会研究科 研究科長 [2009年3月まで]
- 2010年4月 愛知淑徳大学交流文化学部 教授（観光文化Ⅰ（観光文化論）、フィールドワーク論、民俗学、交流文化演習、フィールドスタディ観光Ⅰ（観光文化①）、フィールドスタディ観光Ⅲ（観光文化②）担当） [現在に至る]

2013年4月 愛知淑徳大学グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科グローバルコミュニケーション専攻兼任教授(ツーリズムスタディーズ特講2(観光文化)ほか担当)[現在に至る]

2014年4月 愛知淑徳大学交流文化学部 学部長[2016年3月まで]

学会および社会活動：

- ・ 広島県三原市史編纂調査員 (1975/4-1977/3)
- ・ 日本民具学会評議員 (1983/10-1992/3)
- ・ 静岡県韮山町史編纂調査員 (1984/4-1989/3)
- ・ 広島県東城町史編纂調査員 (1988/4-1991/3)
- ・ 長野県檜川村誌編纂専門委員 (1988/8-1998/3)
- ・ 広島県瀬戸田町史編纂編集委員 (1992/4-1999/3)
- ・ 日本民俗建築学会シンポジウム実行委員長 (1992/4)
- ・ 木曾川学研究協議会民俗・伝統部会座長 (2003/4-2014/3)
- ・ 日本民俗建築学会シンポジウム(科学研究費事業)パネリスト (2007/10)
- ・ 長久手町総合計画審議委員 (2008/4-2009/3)
- ・ 愛知県立大学地域学講座「長久手学 2010～2012」(戦略的の大学連携支援事業)講師 (2010/9-2012/3)
- ・ 日本民俗建築学会第38回大会実行委員長 (2011/5)
- ・ 長久手市平成こども塾運営委員 (2012/7-)
- ・ 長久手市平成こども塾運営委員長 (2014/4-)
- ・ 長久手未来まちづくり懇話会委員 (2015/1-2016/3)
- ・ 日本民俗建築学会 理事 (2010/4-2016/10)
- ・ 日本民俗学会会務担当会議委員 (2014/4-)
- ・ 日本民俗建築学会評議員・代議員 (2016/10-)

受賞：

- ・ 日本民俗建築学会賞 竹内芳太郎賞 (2020/7)

業績：

I. 主な著書：

1. 『日本の観光—昭和初期観光パンフレットに見る』(単著、2020、312、八坂書房)
2. 『瀬戸内の町並み—港町形成の研究—』(単著、1991、448、未来社)
3. 『三原市の民家』(共著、1979、148、三原市役所)
4. 『東京付近の古い町並み』(単著、1980、247、実業之日本社)
5. 『あるくみるきく選書 1』(共著、1980、19-91、アスク)
6. 『住いと町並み』(単著、1982、191、ぎょうせい)
7. 『韮山町の民家』(共著、1990、200、韮山町史刊行委員会)
8. 『中山道上州路の庶民信仰と地域社会』(編著、1996、515、(財)地域社会研究所)
9. 『ひとり歩きの金沢・能登・北陸』(共著、1996、367(189-284)、TB日本交通公社出版事業局)
10. 『東城町史第1巻自然環境・考古・民俗資料編』(共著、1996、1162(475-645)、

東城町)

11. 『瀬戸田町史民俗編』(共著、1998、912 (127-307)、瀬戸田町教育委員会)
12. 『木曾檜川村誌史民俗編』(共著、1998、1397 (49-177,431-574,577-685,687-747)、長野県木曾郡檜川村)
13. 『21世紀への名古屋』(共著、1998、211 (103-131)、中部日本教育文化会)
14. 『あるくみるきく双書 宮本常一とあるいた昭和の日本8近畿②』(共著、2010、53-88、財団法人農山漁村文化協会)
15. 『あるくみるきく双書 宮本常一とあるいた昭和の日本13関東甲信越③』(共著、2011、8-45、財団法人農山漁村文化協会)
16. 『あるくみるきく双書 宮本常一とあるいた昭和の日本4中国四国①』(共著、2011、151-188,189-220、財団法人農山漁村文化協会)
17. 『あるくみるきく双書 宮本常一とあるいた昭和の日本5中国四国②』(共著、2011、159-175,181-210、財団法人農山漁村文化協会)

II. 主な論文等：

1. 瀬戸内の港町形成に関する史的考察(単著、2000、371、法政大学大学院工学研究科博士論文)
2. 教育におけるフィールドワークの実践(単著、2000、233-247、『現場の学問・学問の現場』世界思想社)
3. フィールドワークにおける今日的課題(単著、2000、122,11-16、日本民具学会、民具研究)
4. 瀬戸内海における近世港町の構造と変容に関する事例的考察(単著、2000、117,121-128、日本民俗建築学会、民俗建築)
5. 地域文化研究への視座－宮本常一研究より－(単著、2000、5,125-137、愛知淑徳大学現代社会学部論集)
6. フィールドワークの教育活動への活用に関する研究(単著、2001、6,65-84、愛知淑徳大学現代社会学部論集)
7. ニューメディア利用による教授法の改善に関する研究(共著、2001、303、送教育開発センター91年度報告書)
8. 瀬戸内の港町(単著、2001、9,387-420、『海と列島文化』第9巻、小学館)
9. 地域社会の変容による地区自治組織改革に関する考察－愛知県長久手町長湫地区の事例研究－(単著、2002、7,57-71、愛知淑徳大学現代社会学部論集)
10. 歴史・風土・文化を活かした地域づくりに関する研究(一)－事例研究・郡上八幡：景観形成と人の営みを中心に－(単著、2004、9,1-14、愛知淑徳大学現代社会学部論集)
11. 歴史・風土・文化を活かした地域づくりに関する研究(二)－事例研究・飛騨高山：景観形成と人の営みを中心に－(単著、2005、10,31-50、愛知淑徳大学論集現代社会学部論集)
12. 瀬戸内海の港町における地域づくりに関する研究(単著、2006、1,1-15、現代社会研究科研究報告)
13. 歴史・風土・文化を活かした地域づくりに関する研究(三)－事例研究・木曾妻籠宿：地域づくりの志と課題－(単著、2006、11,1-17、愛知淑徳大学論集現代社

会学部論集)

14. 屋敷境の造形 - 地域の個性を読む (単著、2007、10-24、古川修文先生御退職記念誌刊行委員会)
15. 山陰地方における地域づくりに関する研究 (単著、2007、2,1-14、現代社会研究科研究報告)
16. 四国・山陽地方における地域づくりに関する研究 (単著、2007、12,41-56、愛知淑徳大学論集)
17. 沖縄本島における地域づくりに関する研究 (単著、2008、3,11-25、現代社会研究科研究報告)
18. 東北地方における地域づくりに関する研究 (単著、2008、13,31-44、愛知淑徳大学論集 現代社会学部・現代社会研究科篇)
19. 宮本常一の観光文化論 (単著、2009、4,1-16、現代社会研究科研究報告)
20. 沖縄県竹富島における観光文化に関する考察～インタビュー調査を通して～ (単著、2009 14,15-30、愛知淑徳大学論集 現代社会学部・現代社会研究科篇)
21. 木曾川流域における生活文化遺産～フィールドワークを通して見えてきたもの～ (単著、2009、69-82、木曾川学研究協議会「木曾川流域の自然と歴史－木曾川学論集－」)
22. 1980年代前期の集落保存に関する動向～沖縄県竹富島における観光文化研究(2)～ (単著、2010、5,11-28、現代社会研究科研究報告)
23. 1970年代前期の開発と保存に関する動向～沖縄県竹富島における観光文化研究(1)～ (単著、2010、15,17-35、愛知淑徳大学論集 現代社会学部・現代社会研究科篇)
24. 祭りをとおしてみる地域社会 (共著、2011、6,1-20、現代社会研究科研究報告)
25. 集落景観・地域文化を守り活かす地域づくり (単著、2011、1,67-83、愛知淑徳大学論集、交流文化学部篇)
26. 暮らしの風景の継承～郡上八幡～ (単著、2011、140,53-60、日本民俗建築学会「民俗建築」)
27. 『クーポンで国立公園めぐり』に見る遊覧旅行の一考察—大正～昭和初期における観光文化研究— (単著、2014、4,125-154、愛知淑徳大学論集—交流文化学部篇—)
28. 『日本案内記』に見る国立公園の旅行記事に関する一考察 (1) —昭和初期における観光文化研究— (単著、2014、6,15-38、愛知淑徳大学論集—グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科篇—)
29. 『日本案内記』に見る国立公園の旅行記事に関する一考察 (2) —昭和初期における観光文化研究— (単著、2014、10,1-32、愛知淑徳大学現代社会研究科報告)
30. 木曾川をめぐる大正～昭和初期の観光の情景 (単著、2015、2,57-69、木曾川学研究協議会「木曾川学論集」)
31. 『日本案内記』に見る国立公園の旅行記事に関する一考察 (3) —昭和初期における観光文化研究— (単著、2017、9,29-52、愛知淑徳大学論集—グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科篇—)
32. 『日本案内記』に見る国立公園の旅行記事に関する一考察—昭和初期における観光文化研究— (単著、2017、7,87 - 111、愛知淑徳大学論集—交流文化学部篇)
33. 観光パンフレットに見る昭和初期の観光地に関する一考察 (1) 日光・箱根—藤井務旧蔵資料を中心にして— (単著、2018、10,1-23、愛知淑徳大学論集—グローバ

ルカルチャー・コミュニケーション研究科篇)

34. 観光パンフレットに見る昭和初期の観光地に関する一考察 (2) 富士・伊豆—藤井務旧蔵資料を中心にして (単著、2018、8,89-113、愛知淑徳大学論集—交流文化学部篇)
35. 観光パンフレットに見る昭和初期の観光地に関する一考察 (3) 東京近郊—藤井務旧蔵資料を中心にして— (単著、2019、11,65 - 89、愛知淑徳大学論集—グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科篇)
36. 観光パンフレットに見る昭和初期の観光地に関する一考察 (4) 信越地方—藤井務旧蔵資料を中心にして— (単著、2019、9,129 - 151、愛知淑徳大学論集—交流文化学部篇)
37. 観光パンフレットに見る昭和初期の観光地に関する一考察 (5) 瀬戸内海—藤井務旧蔵資料を中心にして— (単著、2020、12,1 - 27、愛知淑徳大学論集—グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科篇)
38. 観光パンフレットに見る昭和初期の観光地に関する一考察 (6) 九州—藤井務旧蔵資料を中心にして— (単著、2020、10,117 - 141、愛知淑徳大学論集—交流文化学部篇)

他多数著

Ⅲ. その他業績等：

1. 日本民俗大辞典 (下) (項目執筆、2000、吉川弘文館)
2. 漁業と民家 (単著、2001、20-23、日本民俗建築学会『図説民俗建築大辞典』柏書房)
3. 人びとの営みを物語る風景 (単著、2001、5-8、風景の会・中日新聞社「第16回風景の会絵画展—21世紀に残したい風景—」)
4. 中部地方における伝統的民家の保存・再生からまちづくりへ (単著、2003、123,39-40 日本民俗建築学会「民俗建築」)
5. 新しい街の近所づきあい (単著、2004、93,4、財団法人政策科学研究所「21世紀フォーラム」)
6. 木曾川をはさんだ町並みの形成 (単著、2004、1,151-162、木曾川学研究協議会「木曾川学研究」)
7. 城下町犬山を歩く (単著、2004、1,163-172、木曾川学研究協議会「木曾川学研究」)
8. 木曾川流域における水に関わる生活空間の特性 (単著、2005、2,59-86、木曾川学研究協議会「木曾川学研究」)
9. フィールドワークの楽しみ～生活空間を読む～ (単著、2005、2,214-241、木曾川学研究協議会「木曾川学研究」)
10. 人と水とのつきあい方～木曾川流域を歩いて学んだこと～ (単著、2005、2,292-300 木曾川学研究協議会「木曾川学研究」)
11. 木曾川流域の生活文化遺産 (単著、2006、3,179-202、木曾川学研究協議会「木曾川学研究」)
12. 木曾川流域における生活文化遺産の調査 (単著、2006、3,65-82、木曾川学研究協議会「木曾川学研究」)
13. 木曾川流域の文化的景観 (単著、2007、4,264-280、木曾川学研究協議会「木曾川学研究」)

14. 木曾川流域における生活文化遺産の調査（単著、2007、4,116-145、木曾川学研究協議会「木曾川学研究」）
15. 木曾川流域の棚田とその保全（単著、2008、5,219-236、木曾川学研究協議会「木曾川学研究」）
16. 木曾川を楽しむ文化（単著、2008、5,294-298、木曾川学研究協議会「木曾川学研究」）
17. 木曾川上流の水を守る人々～フィールドワークで探る暮らしの風景～（単著、2009、6,243-259、木曾川学研究協議会「木曾川学研究」）
18. 宮本常一の旅に学ぶ（単著、2010、17,13-23、たつの市立室津民俗館「むろのつ」）
19. 熊野灘沿岸における漁村の集落景観—三重県志摩から尾鷲にかけて（単著、2010、85-169、平成18年度～21年度科学研究費補助金（基盤研究B））
20. 知多半島における漁業集落の形成過程に関する考察—事例研究：愛知県南知町—（単著、2010、171-226、平成18年度～21年度科学研究費補助金（基盤研究B）研究成果報告書）
21. 宮本常一（単著、2010、335-335、日本民俗建築学会『日本生活環境文化大辞典』柏書房）
22. 川と観光文化（単著、2012、9,171-196、木曾川学研究協議会「木曾川学研究」）水を巡り水を愉しむ旅（単著、2013、10,162-181、木曾川学研究協議会「木曾川学研究」）
23. 水を巡る旅—大正～昭和初期における旅の情景—（単著、2014、11,157-184、木曾川学研究協議会「木曾川学研究」）
24. 有松（絞り問屋が建ち並ぶ東海道の町並み）（単著、2015、310-311、日本民俗建築学会『写真でみる民家大辞典』柏書房）
25. 柳井（白壁の町並みを活かしたまちづくり）（単著、2015、374-375、日本民俗建築学会『写真でみる民家大辞典』柏書房）
26. 上関（港町の住民交替）（単著、2015、376-377、日本民俗建築学会『写真でみる民家大辞典』柏書房）
27. 瀬戸内海の港町を訪ねて（単著、2019、26,15-19 たつの市立室津民俗館「むろのつ」）
28. 出格子のある飛騨の町家（岐阜県高山市の民家から）（単著、2020、142-143、日本民俗建築学会『民家を知る旅』彰国社）
29. 袖壁（岐阜県郡上市の民家から）（単著、2020、146-147、日本民俗建築学会『民家を知る旅』彰国社）
30. 塗籠造り（山口県柳井市の民家から）（単著、2020、210-211、日本民俗建築学会『民家を知る旅』彰国社）

他多数著